

# Ink and Gold: Paintings of the Kanō School



狩野派は、室町時代の京都に興った絵画の流派です。時の権力との結びつきにも長けた狩野派は、はやく足利將軍の御用を勤め、織田信長と豊臣秀吉、二人の天下人にも愛され、さらに戦国の世に終止符を打った徳川家康により幕府御用絵師に取り立てられました。以降、秩序を重んじる政権のもと、狩野派は江戸時代を通じて絵画の世界の頂点に立ち続けることになるのです。

狩野派の画壇制覇を支えたのは、過去の様々な絵画技術を統合したオールマイティな画風です。狩野派の基本は水墨ですが、初代正信の子・二代元信は、中国人画家のスタイルにもとづく既存の水墨画風を整理し、平明な「型」を作りだしました。同時に元信は、レパートリーの拡大を志し、やまと絵の彩色法を取り入れます。やまと絵の伝統を受け継ぎながら、屏風における金の存在感を強化したのも狩野派です。

桃山の時代風潮を体現した永徳により力強い調和を獲得した水墨と金彩は、やがて探幽によってさらに刷新され、江戸時代絵画の基調となる瀟洒で優美な画風に結実します。一方、探幽と同世代の山雪は、永徳の高弟であった山楽の跡を継ぎ、探幽ら江戸狩野とは異なる濃厚華麗な京狩野の系譜を形作りました。

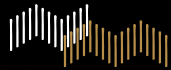
根津美術館のコレクションは、狩野派の全貌を示すものではありません。しかしそこには、元信風をよく学んだ室町時代の優品や、探幽とその弟・尚信の代表作、山雪の魅力的な小品が含まれます。「墨と金」という言葉によって象徴される狩野派の絵画の革新的かつ豊穡な美を感じ取っていただける展覧会をめざします。

# 墨と金

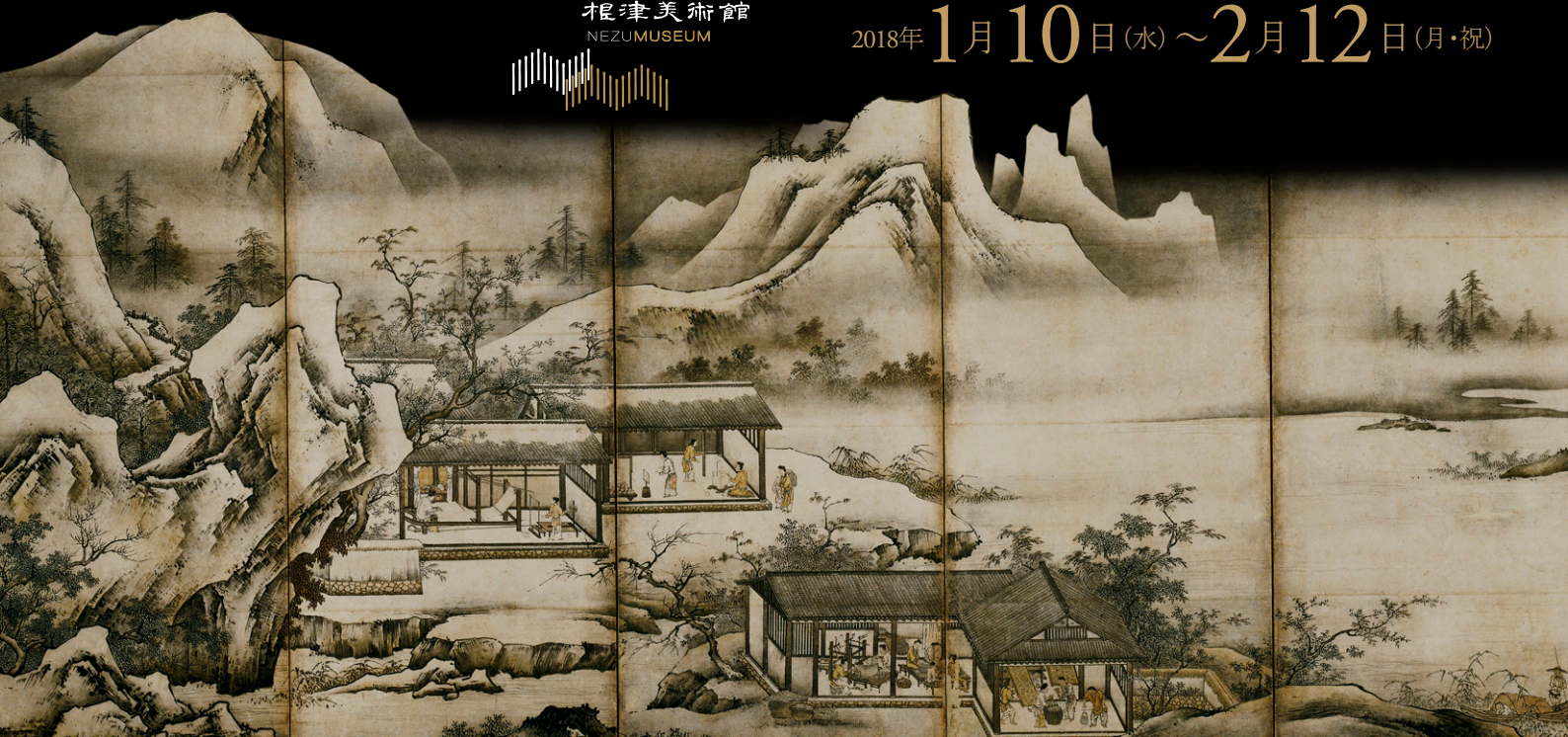
企画展

狩野派の絵画

根津美術館  
NEZUMUSEUM



2018年 1月10日(水) ~ 2月12日(月・祝)





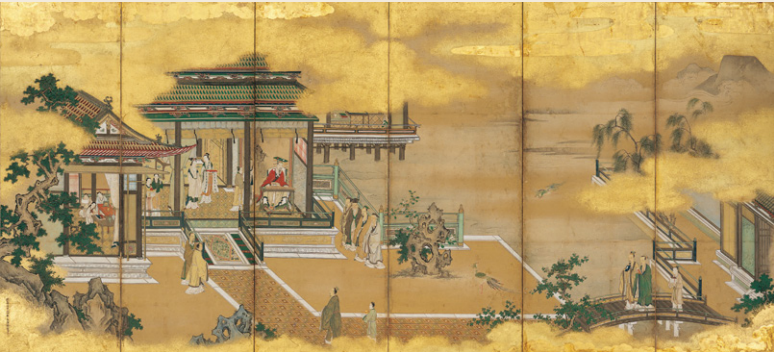
※ 会期中、一部作品の展示替えがございます。詳細は当館HP、または電話でお問合せください。



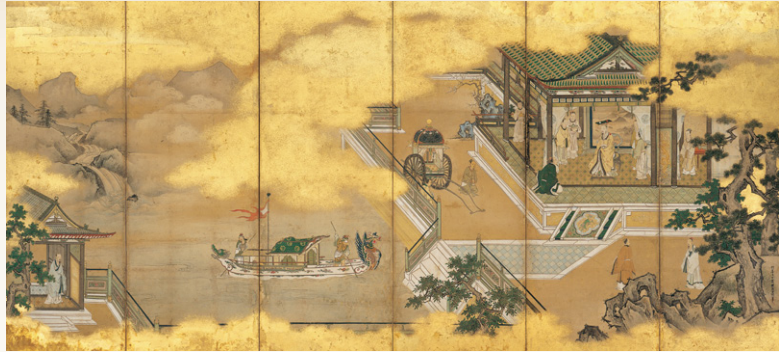
四季の山水景観のなかに、中国製の「<sup>こうしよくず</sup>耕織図」からとられた養蚕と機織りの13の作業場面を展開させる。安定感のある山水表現、複数の図様をまとめあげる構成力、水墨の堅実な筆さばきに、元信(?~1559)の達成を見て取れる。



<sup>ようさんきしよくずびようぶ</sup> 養蚕機織図屏風 伝 狩野元信筆  
6曲1双 紙本墨画淡彩  
日本・室町時代 16世紀  
根津美術館蔵



古代中国の五帝のうち、舟と車を作って難所を克服した黄帝と、琴を弾いて天下をよく治めた舜を描く。為政者が鑑とすべき帝王の画像は、将軍家や大名家で求められた。探幽(1602~74)は、格調高く華麗な画面を作りだしている。



<sup>りやうていしよくずびようぶ</sup> 五帝図屏風 狩野探幽筆  
6曲1双 紙本金地着色  
日本・江戸時代 寛文元年(1661)  
根津美術館蔵



探幽の弟・尚信(1607~50)の作品。筆法はラフで描写も少ないが、余白には水面が広がっているように感じられ、鳥たちには生き生きとした息吹が宿る。



<sup>さんすいかちやうずびようぶ</sup> 山水花鳥図屏風 狩野尚信筆  
6曲1双 紙本墨画淡彩  
日本・江戸時代 17世紀  
根津美術館蔵



犬追物は、武家が騎射の訓練のために行った競技。<sup>さんらく</sup>山楽(1559~1635)が作りだした図様にもとづいて本作品を描いたのは、やはり狩野派の画家だろう。

【展示期間：1月30日(火)~2月12日(月・祝)】



重要美術品 犬追物図屏風  
6曲1双 紙本金地着色  
日本・江戸時代 17世紀  
根津美術館蔵

墨と金  
狩野派の絵画





きょうけいず  
梟鶏図  
かのうさんせつ  
狩野山雪筆  
2幅 紙本墨画淡彩  
日本・江戸時代  
17世紀  
根津美術館蔵

夜に活動する梟と朝を告げる鶏を構図も対比させて描く。鳥たちの眼には人の心理が投影されているようだ。山雪(1590~1651)によるウイットに富む作品。



重要文化財 かんぼくず  
観瀑図  
げいあみ げつとうしゅうきょう  
芸阿弥筆 月翁周鏡ほか2僧賛  
1幅 紙本墨画淡彩  
日本・室町時代  
文明12年(1480)  
根津美術館蔵

足利将軍に仕えた芸阿弥(1431~85)の作品。南宋時代の夏珪のスタイルにもとづく。狩野派は、こうした中国人画家の筆様による制作から水墨を解放した。

## 同時開催

### ひやくちんず 展示室5 百椿図

江戸時代のはじめ、空前の椿園芸ブームのなかで制作された「百椿図」。作者は古くから狩野山楽(1559-1635)と伝えられます。新春恒例となった展示をお楽しみください。

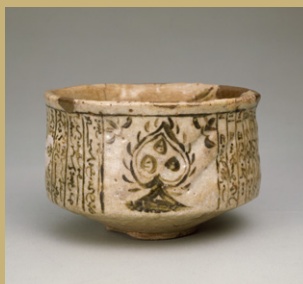


ひやくちんず  
百椿図(部分) 伝 狩野山楽筆 2巻 紙本着色  
日本・江戸時代 17世紀 根津美術館蔵

100種類以上もの椿を、さまざまな器物と組み合わせて描くのが「百椿図」の特徴です。現代のフラワーアレンジメントの趣です。

### ぼじゅつ 展示室6 戊戌の春 - 新年の茶会 -

年の始め、茶席で一年の来福を祈りましょう。平成30年の干支「戊戌」に因んだものなど、新春にふさわしい茶道具約20件を取り合わせます。



しのこよみもんちやわん としおとこ  
志野暦文茶碗 銘年男 美濃  
1口 日本・江戸時代 17世紀  
根津美術館蔵

暦(カレンダー)や宝珠、注連縄(しめなわ)が描かれた茶碗。新年に用いられたと考えられるが、この茶碗に書かれたのは存在しない戯れの暦である。



そめつけいぬぞうしこうごう  
染付犬荘子香合 景德鎮窯  
1口 中国・明時代 17世紀  
根津美術館蔵

蓋上の動物を犬に見立て、さらにその周囲に描かれている蝶と花より、荘子の説話「胡蝶の夢」を連想し、犬荘子と称された。

## 特別催事

### 「茶室で楽しむ椿の花芸 —「百椿図」に寄せて—

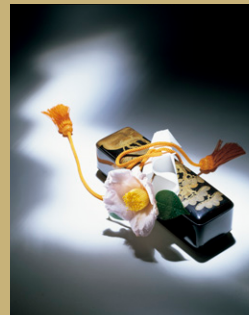
花芸安達流・二代主宰 あだちとうこ 安達瞳子氏

2月2日(金)～4日(日) 午前10時から午後4時まで (於:弘仁亭・無事庵)

ただし、4日(日)は午後3時まで

※観覧は無料ですが、入館料をお支払いください。

さまざまな器物を花器に見立てた「百椿図」を実際の椿で再現するとともに、現代の感覚で椿のフラワーアレンジをご披露いただきます。根津美術館の茶室の風情とともにお楽しみください。



## 関連プログラム

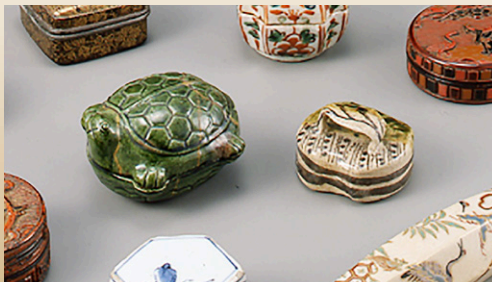
- 講演会** 「狩野派を知る見る楽しむ」  
日時 1月27日(土) 午後2時～3時30分  
講師 山下善也氏 (九州国立博物館主任研究員)  
会場 根津美術館講堂 定員130名
- 〈申込方法〉 当館ホームページの「イベント情報」の申込みフォームから、または往復はがき(1参加者1イベントにつき1枚)に参加を希望されるイベント名・住所・氏名(返信面にも)・電話番号を明記の上、〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 根津美術館講演会係宛にお送りください。  
※ 先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。

- スライド  
レクチャー** 担当学芸員が展覧会の見どころをスライドを用いて解説いたします。  
「墨と金 —狩野派の絵画—」1月12日(金)  
講師 野口 剛 (根津美術館 学芸課長)  
「百椿図」1月19日(金)  
講師 野口 剛 (同上)  
会場 根津美術館講堂 定員各回130名  
※ 各回とも午後1時30分から約45分。開始の15分前より開場。  
※ 先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。

## 開催概要

- 展覧会名** 企画展「墨と金 —狩野派の絵画—」  
**主催** 根津美術館  
**開催期間** 2018年 1月10日(水)～2月12日(月・祝)  
**開館時間** 午前10時～午後5時[入館は午後4時30分まで]  
**休館日** 毎週月曜日、ただし2月12日(月・祝)は開館  
**入館料** 一般1100円(900円)  
学生800円(600円)  
※()内は20名以上の団体料金、中学生以下は無料
- 前売券** 一般900円 学生600円  
※ 2017年11月3日(金・祝)～12月17日(日) 特別展「鑿の華 —光村コレクションの刀装具—」展開催期間中、根津美術館ミュージアムショップにて販売
- アクセス** 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線(表参道)駅下車A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベータまたはエスカレーター)より徒歩10分
- 住所** 〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1  
**お問合せ** tel. 03-3400-2536 (代表)  
hp. <http://www.nezu-muse.or.jp>

## 次回展



(左)交趾亀香合 中国・明時代 17世紀 根津美術館蔵  
(右)織部ハジキ香合 日本・桃山～江戸時代17世紀 根津美術館蔵 (ほか)

### こうごう ひゃっか りょうらん 企画展 香合百花繚乱

2018年 2月22日(木)～3月31日(土)

陶磁器から漆工まで、茶席を彩る小さな香合の愛らしい姿をお楽しみください。